

新日本ホイール工業株式会社

環境経営レポート

対象期間：2024年4月～2025年3月



作成年月日：2025年6月30日
新日本ホイール工業株式会社



目 次

新日本ホイール工業株式会社

I 事業概要	P 1
II 環境経営方針	P 2
III 実施体制：新日本ホイール工業株式会社 組織図	P 3
IV 環境経営目標とその実績	P 4～
V 環境経営計画の取組結果とその評価	P 9～
VI 環境経営計画 次年度の取組内容	P 13～
VII 環境法規則の取りまとめ	P 15～
VIII 代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果	P 17



I 事業概要

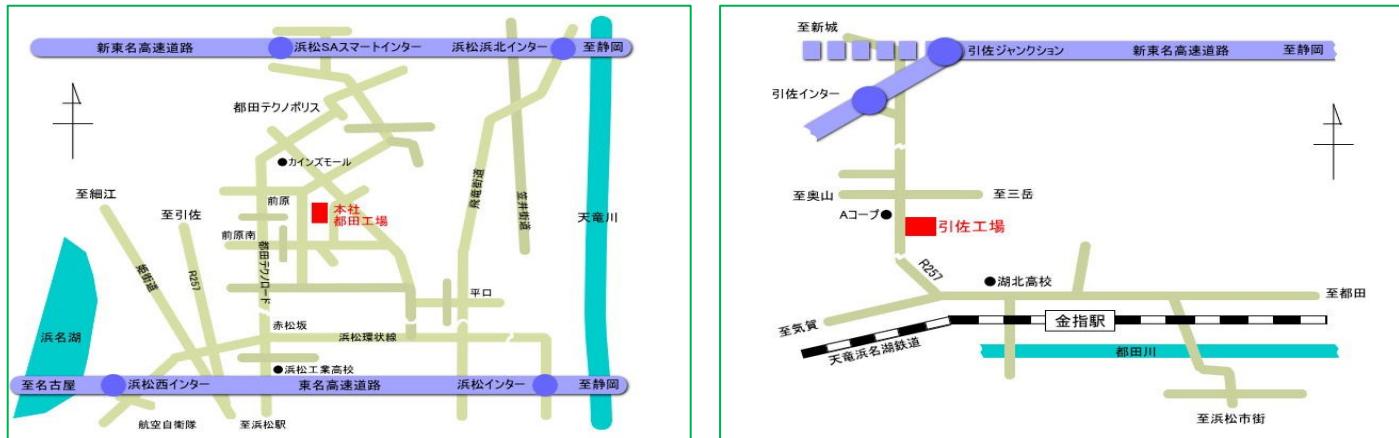
1. 事業所名及び代表者名

新日本ホイール工業株式会社
代表取締役社長 白井 修二（しらい しゅうじ）

2. 所在地 2024年1月～北区⇒浜名区へ

○本社・都田工場
〒431-2103
静岡県浜松市浜名区新都田四丁目1番2号

○引佐工場
〒431-2212
静岡県浜松市浜名区引佐町井伊谷2370番地



3. 環境管理責任者名及び連絡先

環境管理責任者 : 松下 辰治 (生産総括部 部長)
E 2 1事務局 : 管理部主査・生産総括部次長(引佐)・調達技術室室長
TEL : 053-428-4551 FAX : 053-428-4541

4. 事業の内容

- 農業機械・産業機械・四輪バギー用ブレーキ・クラッチの設計、開発および製造販売
- 二輪用アルミニウムホイールの塗装、加工、組立までの一貫製造

5. 事業規模

壳上高 : 3,582百万円（都田・引佐・アルミ切粉壳上含む） 2024年度「令和6年度」

従業員：97人（役員・派遣社員等含む 2025年3月末現在）

床面積：4,088m²（都田工場） 3,254m²（引佐工場）

事業年度：4月～3月

6. 対象範囲

登録事業者名：新日本ホイール工業株式会社
対象事業所：本社・都田工場、引佐工場
対象外：なし

Ⅱ 環境経営方針

基本理念

新日本ホイール工業(株)は、地球環境の保全が人類共通の重要課題と自覚し、環境に調和した事業活動に取り組みます。

基本方針

当社は、静岡県西部に位置し、二輪車用ホイール・ハブ並びに農業機械用ブレーキ・クラッチなどを設計・開発・製造し、その製品は納入先で完成商品となり、全世界に輸出されています。このような事業活動をふまえて地球環境の保全に必要な組織と仕組みを構築し、関係する各種法規制等の遵守はもとより、目的を定めて継続的な改善に努めます。なお、本方針は一般に入手可能と致します。

目的・目標 :

- 仕損じ費の低減
- 省エネルギーの促進
- 省資源化の促進
- 廃棄物の削減
- 環境負荷物質の使用削減
- サステナブル調達の推進



1. 環境保全に関する活動は技術的かつ経済的に可能な範囲で、関連する各部門において環境目的・目標を設定し、環境活動を推進します。
2. 関係する法規制およびその他要求事項を遵守し、環境汚染の防止に努めます。
3. 環境マネジメント(環境経営)システムおよび目的・目標は、変化する状況を反映して定期的に見直し、継続的改善を図ります。
4. 必要な教育訓練により、この方針の周知と環境保全意識の向上に努め、全社員参加の活動を展開します。

制定日：2001年 8月1日
改定日：2024年 7月1日

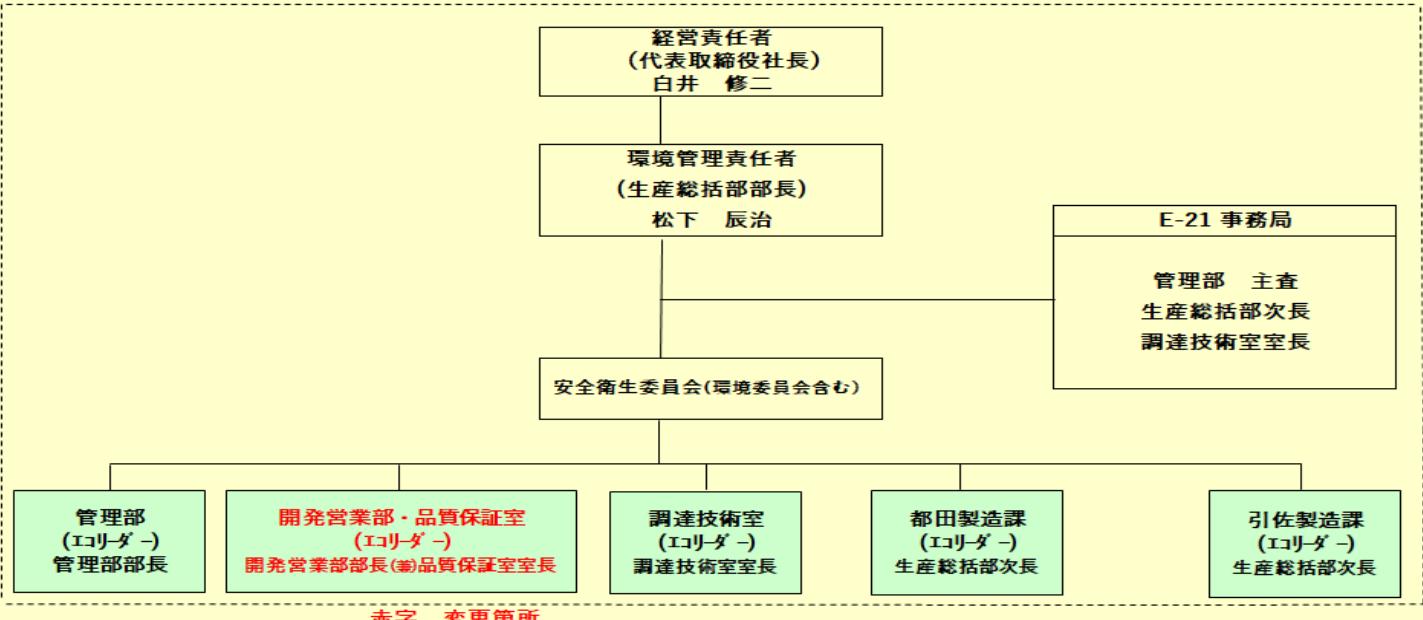
代表取締役社長 白井 修二

Ⅲ 実施体制:新日本ホイール工業株式会社 組織図

作成者： 管理部 主査
更新日： 2025年4月1日

新日本ホイール工業株式会社 環境経営システム組織図

対象範囲：本社・都田工場、引佐工場（全社）



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
経営責任者（社長）	①環境経営全般に関する統括責任 ②環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ③環境管理責任者を任命 ④代表者による全体の評価と見直しを実施 ⑤環境経営活動レポートの承認 ⑥経営における課題とチャンスを整理し、明確化
環境管理責任者	①環境経営システムの構築、実施、管理 ②環境関連法規等の取りまとめを承認 ③環境経営目標・環境活動計画書を確認 ④環境活動の取組結果を代表者へ報告 ⑤環境経営活動レポートの確認 ⑥改善活動計画 各部門の実施状況のフォロー
E-21 事務局	①環境管理責任者の補佐、安全衛生委員会の事務局 ②環境活動の実績集計 ③環境関連法規等最新版管理 ④環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ⑤環境経営活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
安全衛生委員会 (環境委員会含む)	①環境活動計画の審議 ②環境活動実績の確認・評価
各部門 部門長 (エコリーダー)	①自部門における環境経営システムの実施 ②自部門における環境方針の周知 ③自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ④自部門に該当する環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ⑤自部門に関連する改善活動計画の実施及び達成状況の報告 ⑥特定された項目の手順書作成及び運用管理 ⑦自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ⑧自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	①環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ②決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

IV 環境経営目標とその実績

新日本ホイール工業株式会社

①2024年～2026年度(3年間)の 中期目標(全社)-1

☆毎年、代表者による見直しを踏まえて目標値及び達成手段を見直します。

2023年度全社生産数 985,712個 2023年度引佐生産数 409,077個

環境経営目標	環境目標項目	責任部門	基準値 (2023年度基準年度)		年度毎目標・達成手段		
					2024 年度	2025 年度	2026 年度
仕損じ費の低減	2026年度までに 全社合計金額の 仕損じ費を 30%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室	仕損じ費 20,785,314円	基準年度比	90%	80%	70%
				目標値	18,706,783 円	16,628,251 円	14,549,720 円
				達成手段	ワースト3の改善 ワンポイントレッスンなどで周知 原因分析		
省エネルギーの促進 省資源化の促進	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの CO2総排出量を 4.5%削減する	事務局	排出量 2,699,780kg-CO2 個当たり 2.7389 kg-CO2/個	基準年度比	98.5%	97.0%	95.5%
				目標値	2.70 kg-CO2/個	2.66 kg-CO2/個	2.62 kg-CO2/個
				達成手段	毎月電気・LPG数値確認		
	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの 電気使用量を 3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部 IT推進室	使用量 2,781,288kwh 個当たり 2.82 kWh/個	基準年度比	99%	98%	97%
				目標値	2.79 kWh/個	2.77 kWh/個	2.74 kWh/個
				達成手段	昼休み・不使用時の消灯継続 エアコンは室温見て管理する ノー残業データの継続		
省エネルギーの促進 省資源化の促進	2026年度までに 引佐生産量(個)当たりの LPG使用量を 6%削減する	生産総括部 (引佐工場)	使用量 413,030.9kg 個当たり 1.01 kg/個	基準年度比	98%	96%	94%
				目標値	0.99 kg/個	0.97 kg/個	0.95 kg/個
				達成手段	老朽化診断指摘事項改善 不良品を出さないように対策		
省エネルギーの促進 省資源化の促進	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの 水使用量を 3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部 IT推進室	使用量 8,334m³ 個当たり 8.45 ℥/個	基準年度比	99%	98%	97%
				目標値	8.37 ℥/個	8.29 ℥/個	8.20 ℥/個
				達成手段	定期的に水漏れ点検 洗浄工程の見直し 雨水の利用検討		

購入電力二酸化炭素排出係数 カワサキグリーンエナジー(株)<登録番号:A0088>(R02年(2020年)度実績):0.516kg-CO2/kWh 12月～中部電力ミライズ(株)<登録番号:A0270>(R05年(2023年)度実績):0.411kg-CO2/kWh

☆評価・見直し・是正項目

IV 環境経営目標とその実績

新日本ホイール工業株式会社

①. 2024年～2026年度(3年間)の 中期目標(全社)一2

☆毎年、代表者による見直しを踏まえて目標値及び達成手段を見直します。

2023年度全社生産数 985,712個 2023年度引佐生産数 409,077個

環境経営目標	環境目標項目	責任部門	基準値 (2023年度基準年度)		年度毎目標・達成手段		
					2024 年度	2025 年度	2026 年度
省資源化の促進	2026年度までに 引佐生産量(個)当たりの 地下水使用量を 4.5%削減する	生産総括部 (引佐工場)	使用量 5,600m ³ 個当たり 13.69 ℥／個	基準年度比	98.5%	97.0%	95.5%
				目標値	13.48 ℥／個	13.28 ℥／個	13.07 ℥／個
				達成手段	定期的に水漏れ箇所確認 使用量異常値発生時原因究明		
廃棄物の削減	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの 産業廃棄物量を3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部IT推進室	廃棄量 138.82t 個当たり 140.83 g／個	基準年度比	99%	98%	97%
				目標値	139.42 g／個	138.01 g／個	136.61 g／個
				達成手段	分別の徹底 歩留まり率の向上 リサイクルへの対応		
	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの 金属くずの量を3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室	廃棄量 305.81t 個当たり 310.24 g／個	基準年度比	99%	98%	97%
				目標値	307.14 g／個	304.04 g／個	300.94 g／個
				達成手段	不良品の削減 ワンポイントレッスンなど周知		
環境負荷物質の使用量削減	2026年度までに 引佐生産量(個)当たりの 環境負荷物質量を3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室	購入量 12,919 kg 個当たり 31.58 g／個 基準年 2023 年	基準年度比	100%	100%	100%
				目標値	26.49t	26.49t	26.49t
				達成手段	段ボールの引取依頼 段ボールの代替え品検討		
サステナブル調達の推進	取引先からの要望に基づく 原材料や部品のトレーサビリティ 管理への対応	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部IT推進室	環境負荷物質の調査 (REACH規制など) 環境関連法令の遵守 紛争鉱物への取組 品質・安全性の確保	目標値	取引先からの環境負荷物質調査 対応への実施率100%目指す	取引先からの環境負荷物質調査 対応への実施率100%目指す	取引先からの環境負荷物質調査 対応への実施率100%目指す
				達成手段	○実施率 … 100%目標 ・環境法改正の確認 ・協力会社への迅速な指示		

購入電力二酸化炭素排出係数 カワサキグリーンエナジー(株)<登録番号:A0088>(R02年(2020年)度実績):0.516kg-CO2/kWh 12月～中部電力ミライズ(株)<登録番号:A0270>(R05年(2023年)度実績):0.411kg-CO2/kWh

☆評価・見直し・是正項目

IV 環境経営目標とその実績

新日本ホイール工業株式会社

②. 運用期間(2024年4月～2025年3月)実績(全社)-1

評価○達成率95%～ 評価×達成率95%未満

2023年度全社生産数 985,712個 2023年度引佐生産数 409,077個 2024年度全社生産数 928,291個

2024年度引佐生産数 398,891個

環境経営目標	環境目標項目	責任部門	基準値 (2023年度基準年度)		2024年度目標	2024年度実績		2025年度目標
					2024 年度	2024 年度	評価	2025 年度
仕損じ費の低減	2026年度までに 全社合計金額の 仕損じ費を 30%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室	仕損じ費 20,785,314円	基準年度比	90%	仕損じ費	総計	80%
				目標・実績	18,706,783 円	28,238,282 円	×	16,628,251 円
				達成手段 ・コメント	ワースト3の改善 ワンポイントレッスンなどで周知 原因分析	都田23年度 9,140,064円 ↓ 24年度 6,923,894円 都田工場は改善効果有 引佐工場:塗装設備更新要	都田のみ ○	ワースト3の改善 ワンポイントレッスンなどで周知 原因分析
省エネルギーの促進 省資源化の促進	2026年度までに 全社生産量(個)当たりのCO2 総排出量を4.5%削減する	事務局	排出量 2,699,780kg-CO2 個当たり 2.74 kg-CO2/個	基準年度比	98.5%	排出量 2,487,807kg-CO2	○	97.0%
				目標・実績	2.70 kg-CO2/個	2.68 kg-CO2/個		2.62 kg-CO2/個
				達成手段・コメント	毎月電気・LPG数値確認	異常値無し確認		
	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの 電気使用量を 3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部 IT推進室	使用量 2,781,288kwh 個当たり 2.82 kWh/個	基準年度比	99%	使用量 2,627,261kwh	○	98%
				目標・実績	2.79 kWh/個	2.83 kWh/個		2.77 kWh/個
				達成手段 ・コメント	昼休み・不使用時の消灯継続 エアコンは室温見て管理する ノー残業デーの継続	ノー残業デーの継続効果有 総使用量では減少 猛暑時の節電は危険		ノー残業デーの継続 不要時の消灯等継続
	2026年度までに 引佐生産量(個)当たりの LPG使用量を 6%削減する	生産総括部 (引佐工場)	使用量 413,030.9kg 個当たり 1.01 kg/個	基準年度比	98%	使用量 402,116kg	○	96%
				目標・実績	0.99 kg/個	1.01 kg/個		0.97 kg/個
				達成手段 ・コメント	老朽化診断指摘事項改善 不良品を出さないように対策	老朽化診断指摘事項改善 使用量では微減		直行率上げる 引佐塗装設備更新中
	2026年度までに 全社生産量(個)当たりの 水使用量を 3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部 IT推進室	使用量 8,334m³ 個当たり 8.45 ℥/個 引佐…上水+地下水 都田…上水のみ	基準年度比	99%	使用量 8,035m³	○	98%
				目標・実績	8.37 ℥/個	8.66 ℥/個		8.29 ℥/個
				達成手段 ・コメント	定期的に水漏れ点検 洗浄工程の見直し 雨水の利用検討	総使用量では減少 水漏れ箇所の確認		定期的に水漏れ点検 洗浄工程の見直し 雨水の利用検討

購入電力二酸化炭素排出係数 カワサキグリーンエナジー(株)<登録番号:A0088>(R02年(2020年)度実績):0.516kg-CO2/kWh 12月～中部電力ミライズ(株)<登録番号:A0270>(R05年(2023年)度実績):0.411kg-CO2/kWh

☆目標未達成の是正報告:仕損じ費増加…引佐塗装設備の問題に伴う不良が大量に発生。2025年度に設備更新などを実施し、改善対策しているところです。

・都田工場は改善活動の成果等で仕損じ費が順調に減少。全体の目標は下げずに「2026年度仕損じ費30%削減」に向けて、取り組んでまいります。

IV 環境経営目標とその実績

新日本ホイール工業株式会社

②. 中期目標に対する2024年度実績(全社)-2

評価○達成率95%～ 評価×達成率95%未満

2023年度全社生産数 985,712個 2023年度引佐生産数 409,077個 2024年度全社生産数 928,291個 2024年度引佐生産数 398,891個

環境経営目標	環境目標項目	責任部門	基準値 (2023年度基準年度)		2024年度目標	2024年度実績		2025年度目標
					2024 年度	2024 年度	評価	2025 年度
省資源化の促進	2026年度までに引佐生産量(個)当たりの地下水使用量を4.5%削減する	生産総括部 (引佐工場)	使用量 5,600m ³ 個当たり 13.69 ℥／個	基準年度比 目標・実績 達成手段 ・コメント	98.5%	使用量 5,633m ³	○	97.0%
					13.48 ℥／個	14.12 ℥／個		13.28 ℥／個
					定期的に水漏れ箇所確認 使用量異常値発生時原因究明	定期的に水漏れ箇所確認 ↓2025年修理		定期的に水漏れ箇所確認 使用量異常値発生時原因究明
廃棄物の削減	2026年度までに全社生産量(個)当たりの産業廃棄物量を3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部IT推進室	廃棄量 138.82t 個当たり 140.83 g／個 基準年 2023 年	基準年度比 目標・実績 達成手段 ・コメント	99%	廃棄量 172.79t	○	98%
					139.42 g／個	186.13 g／個		138.01 g／個
					分別の徹底 歩留まり率の向上 リサイクルへの対応	リサイクルへの対応 倉庫ビニール等廃棄で増加 臨時の廃棄物除外検討		分別の徹底 歩留まり率の向上 リサイクルへの対応
	2026年度までに全社生産量(個)当たりの金属くずの量を3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室	廃棄量 305.81t 個当たり 310.24 g／個 基準年 2023 年	基準年度比 目標・実績 達成手段 ・コメント	99%	廃棄量 131.66t	○	98%
					307.14 g／個	141.83 g／個		304.04 g／個
					不良品の削減 ワンポイントレッスンなど周知	不良品の削減 ワンポイントレッスンなど周知		不良品の削減 ワンポイントレッスンなど周知
	一般廃棄物(アルミ缶等含む) 全社2023年度排出量基準として維持継続をする	全部門	廃棄量 26.49t	基準年度比 目標・実績 達成手段 ・コメント	100%	108.80%	○	100%
					26.49t	28.82t		26.49t
					段ボールの引取依頼 段ボールの代替え品検討	倉庫段ボール廃棄で増加 段ボールの代替え品検討		段ボールの引取依頼 段ボールの代替え品検討
環境負荷物質の使用量削減	2026年度までに引佐生産量(個)当たりの環境負荷物質量を3%削減する	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室	購入量 12,919 kg 個当たり 31.58 g／個 基準年 2023 年	基準年度比 目標・実績 達成手段 ・コメント	99%	購入量 15,553kg	○	98%
					31.27 g／個	38.99 g／個		30.95 g／個
					有害性物質の表示の徹底 不良品の削減 代替物質の調査・テスト	代替物質の調査・テスト 直行率を上げる 不良品の削減		有害性物質の表示の徹底 不良品の削減 代替物質の調査・テスト
サステナブル調達の推進	取引先からの要望に基づく原材料や部品のトレーサビリティ管理への対応	生産総括部 開発営業部 調達技術室 品質保証室 管理部IT推進室	環境負荷物質の調査 (REACH規制など) 環境関連法令の遵守 紛争鉱物への取組 品質・安全性の確保	目標・実績 達成手段 ・コメント	取引先からの環境負荷物質調査 対応への実施率100%目指す	取引先からの環境負荷物質調査 対応への実施率100%目指す	○	取引先からの環境負荷物質調査 対応への実施率100%目指す
					○実施率 … 100% ・環境法改正の確認 ・協力会社への迅速な指示	○実施率 … 100% ・環境法改正の確認 ・協力会社への迅速な指示		カーボンニュートラル調査対応 環境関連法令の遵守確認 協力会社への迅速な指示

購入電力二酸化炭素排出係数 カワサキグリーンエナジー(株)<登録番号:A0088>(R02年(2020年)度実績):0.516kg-CO2/kWh 12月～中部電力ミライズ(株)<登録番号:A0270>(R05年(2023年)度実績):0.411kg-CO2/kWh

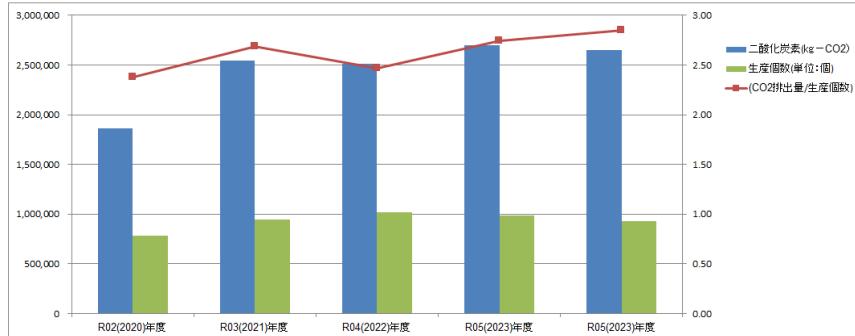
☆目標未達成の是正報告:産業廃棄物・一般廃棄物の中で、倉庫片付けで出た大量のビニール・木パレット・段ボールなど廃棄した為、目標値とかけ離れた数値となってしまいました。

↓今後は、総排出量とは別に、業務外のもので数量等明らかである場合は除外し集計後、比較分析していきます。

・環境負荷物質の使用量増加は、仕損じの増加と連動しています。再塗装などで、塗料等を多く使用するのが要因です。設備補修等の後使用量の変化を確認していきます。

IV 環境経営目標とその実績

新日本ホイール工業株式会社 溫室効果ガス排出量 年度推移 実績グラフ

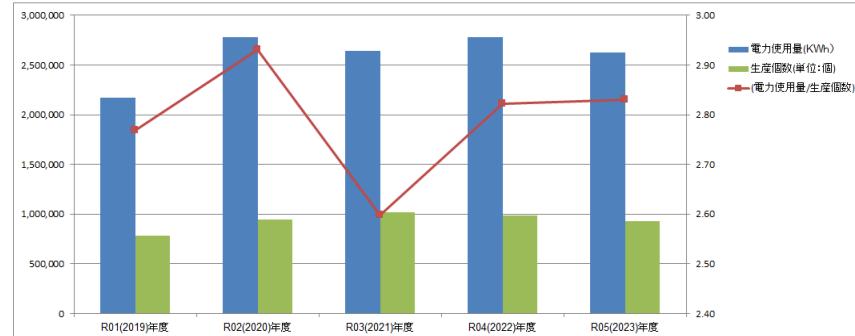


○問題点・原因

猛暑が続いた中で電力使用量減となりました。CO2排出量も総量としては削減しています。

○是正対策
暑さ・寒さ対策はしながら維持管理していきます。

新日本ホイール工業株式会社 電力使用量 年度推移 実績グラフ

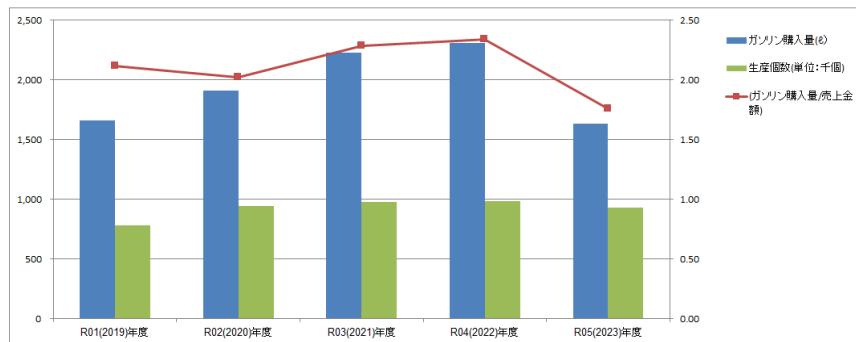


○問題点・原因

猛暑が続いた中で電力使用量は削減されました。

○是正対策
熱中症対策や寒さ対策など従業員の衛生環境必要なことは守りつつ、削減できることを進めていきます。

新日本ホイール工業株式会社 ガソリン購入量 年度推移実績グラフ

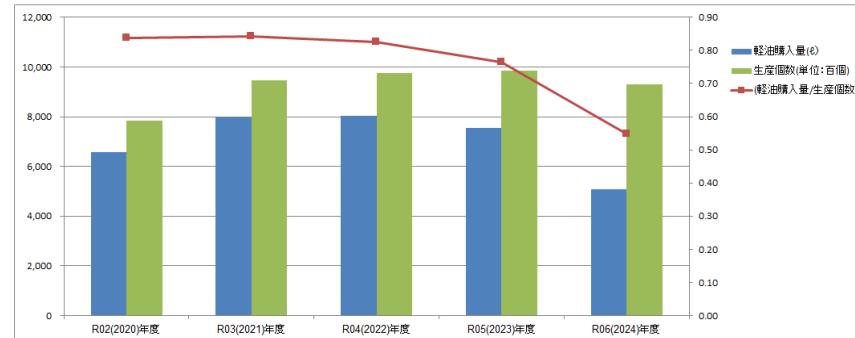


○問題点・原因

○燃費が悪かった社用車をe-POWERへ変更やガソリン以外廃止などにより非常に効果出ています。

○是正対策
維持管理していきます。

新日本ホイール工業株式会社 軽油購入量 年度推移 実績グラフ

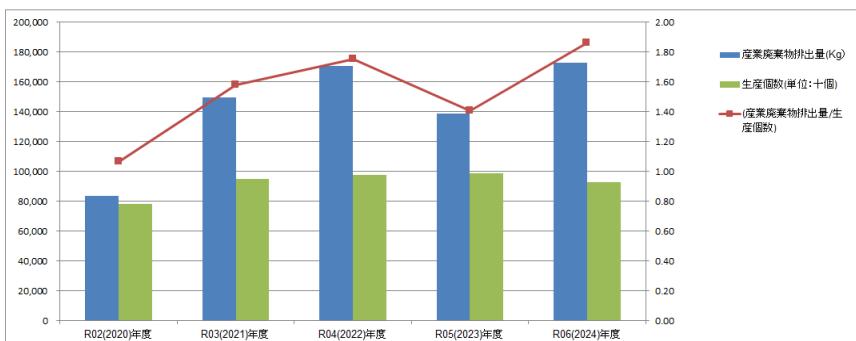


○問題点・原因

○軽油リットルの削減の効果が出ています。トラックの遠方への外出があると数値がかなり変動します。

○是正対策
維持管理していきます。

新日本ホイール工業株式会社 産業廃棄物排出量(金属屑を除く) 年度推移 実績グラフ

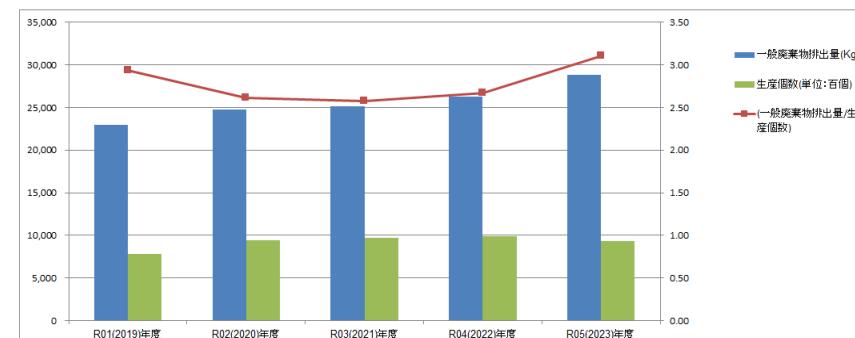


○問題点・原因

産業廃棄物排出量が増えた主な要因は、倉庫内の片付でビニール・パレット等が増えたのが要因。

○是正対策
前年度との比較の際は臨時なもののは外した評価で検証していきます。

新日本ホイール工業株式会社 一般廃棄物排出量(アルミ缶等含む) 年度推移 実績グラフ



○問題点・原因

一般廃棄物量が増えた主な要因は、倉庫内の片付でダンボール等が増えたのが要因。

○是正対策
前年度との比較の際は臨時なもののは外した評価で検証していきます。

2024(令和6)年度 改善活動計画書(各部署より環境関係を一部抜粋)

○N.O. 1 都田工場

評価：○目標達成・実施 △(取り組み、対策したが)目標未達成・一部未実施 ✕何もせずに未達成・未実施 新日本ホイール工業株式会社

活動実施項目	評価	推進者	担当者	スケジュール (→ : 計画 → : 実施済み)															
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
経費削減																			
製造経費削減 (積み上げ予算対比)																			
消耗工具	6.4%削減(予算対比)	○	加工組立	係長 係長	上段単月実績 118% 118%	下段累計 123% 121%	148% 130%	120% 127%	71%	39%	128%	86%	81%	51%	66% 95% 87% 94%				
消耗品費	6.6%削減	△	加工組立	係長 係長	上段単月実績 156% 156%	下段累計 116% 136%	128% 134%	124% 131%	102%	98%	157%	149%	118%	128%	118% 126% 84% 122%				
超勤費	13.8%削減	△	加工組立	係長 係長	上段単月実績 83% 83%	下段累計 171% 113%	107% 111%	107% 110%	138%	37%	916%	108%	9%	14%	51% 80% 939% 88%				
修繕費	6.5%削減	△	加工組立	係長 係長	上段単月実績 169% 169%	下段累計 112% 142%	86% 117%	166% 126%	110%	282%	323%	175%	60%	169%	14% 129% 79% 125%				
使用電力量の削減【1ヶあたり2.28Kwh】 前年2.51Kwh → 2.28Kwh																			
エネルギー使用量の監視体制の確立																			
加工モデルライン電気使用量計器の設置と監視体制の確立				△	技術	担当員	設備メーカーより説明受講 設備導入 25万 ソフト使用料 5万/月→社内検討した結果費用面等で実行せず												
サステナブル調達の実施 客先要求に対する確実な回答実施				○	営業調達		主査室長	→→→→→→→→→→→→											
電子化の推進 電子化によるペーパーレス化 環境啓蒙活動の実施				○	管理部	主査		→→→→→→→→→→→→											

2024(令和6)年度 改善活動計画書(各部署より環境関係を一部抜粋)

○NO. 2引佐工場

評価：○目標達成・実施 ▲（取り組み、対策したが）目標未達成・一部未実施 ✘何もせずに未達成・未実施 新日本ホイール工業株式会社

活動実施項目	評価	推進者	担当者	スケジュール (→ : 計画 → : 実施済み)											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生産性向上															
製造経費削減 製造比例費削減（予算対比）															
消耗工具費 14%減	△	加工 塗装	係長	上段単月実績 93.9%	89.7%	99.1%	96.5%	167.6%	38.3%	94.5%	78.8%	101.0%	110.4%	81.5%	72.4%
		組立		93.9%	91.8%	94.2%	94.8%	109.4%	97.5%	97.1%	94.8%	95.5%	97.0%	95.6%	93.6%
消耗品費 14%減	△	加工 塗装	係長	140.3%	138.1%	147.6%	168.3%	102.3%	138.5%	148.8%	90.6%	154.3%	134.4%	156.6%	106.5%
		組立		140.3%	139.2%	142.0%	148.0%	139.3%	139.2%	140.6%	134.3%	136.5%	136.3%	138.2%	135.5%
修繕費 1%減	○	加工 塗装	係長	28.9%	19.6%	79.0%	46.4%	77.1%	180.9%	24.5%	57.9%	56.9%	97.0%	88.0%	197.9%
		組立		28.9%	24.3%	42.5%	43.5%	50.2%	72.0%	65.2%	64.3%	63.5%	66.8%	68.7%	79.5%
品質向上															
仕損費削減(50%減)															
セットミスの防止 メンテナンスの確実な実施 治具管理の徹底	△	加工 塗装	係長	上段単月実績 215.6%	177.6%	271.5%	218.5%	251.2%	295.3%	372.8%	407.4%	466.8%	669.0%	737.2%	1089.4%
		組立		215.6%	196.6%	221.3%	220.8%	226.9%	238.3%	257.5%	276.2%	297.4%	334.6%	371.2%	431.0%
C02排出量削減															
省エネ活動 生産量当たり(個当たり) 電力量削減 3.93kwh/個以下 コンプレッサー管理	△	加工 塗装	係長	上段単月実績 2.52	2.62	3.13	4.27	3.87	4.25	3.31	2.99	3.02	3.41	3.23	3.17
		組立		2.52	2.57	2.75	3.13	3.28	3.44	3.42	3.37	3.33	3.34	3.33	3.31
LPG使用量 0.76kg/個以下 ボイラ稼働時間管理 LPG使用量の効率化	△	加工 塗装	係長	上段単月実績 1.06	0.64	0.82	0.86	0.9	0.89	0.71	0.96	1.21	1.23	1.46	1.22
		組立		1.06	0.85	0.84	0.84	0.85	0.86	0.84	0.85	0.89	0.92	0.97	0.99

V 環境経営計画の取組結果とその評価(総評)

新日本ホイール工業株式会社

◇各部門の改善環境経営計画書より主なものを抜粋

評価：○実施 △再検討 ×未実施

①サステナブル調達の推進（環境に配慮した物品の推進）川崎重工グループ『サステナブル調達ガイドライン』より

②環境負荷物質の使用量削減

No.	環境経営計画の内容	部署	評価	次年度の取組
1	事務用品のグリーン購入把握 ※2020年度より詳細の集計は廃止	管理部 生産管理係	○	配慮して購入
2	得意先サステナブル調達の指示に迅速に対応し、環境の負荷を考慮して調達する	営業部	○	継続実施
		調達技術室		
3	化学物質購入の監視 ※溶剤等購入時、事前に環境負荷物質の有無を確認	品質保証室 製造課・調達技術	○	継続実施
4	取引先へ使用禁止物質の使用をしないように周知させる	調達技術室	○	継続実施
5	一部の部品を抜粋し、構成を調べ禁止物質の使用がない事を確認する	調達技術室	○	継続実施

[総評] 事務用品等のグリーン購入率の調査を継続してきました。グリーン購入率は安定してきたので、細かい集計を廃止し配慮して購入を心掛けます。

取引先からのサステナブル調達等調査があれば、随時迅速に対応しています。

※欧州REACH規則・カーボンニュートラル導入に向けてなどにより、調査依頼が増えています。

③省エネルギーの促進、④省資源化の促進、⑤廃棄物の削減

No.	環境経営計画の内容	部署	評価	次年度の取組
1	電気使用量の削減 ・不用時の消灯　・・昼休みの消灯 ・空調温度の適正化…室内の温度計を見て調整する ・工場内蛍光灯など→LEDへ更新中	全部門 事務所・工場 製造課	○	継続実施
2	5Sの推進と徹底…役員の5S監査指摘事項改善中 業務内容の効率化…業務進捗確認と対応の徹底	製造課 調達技術室他	○	継続実施
3	仕損費の削減・品質向上	製造課 調達技術室他	△	継続実施
4	工数削減	製造課 調達技術室	○	継続実施
5	部品のリユース ↓研究材料費削減の為実施	開発営業部 調達技術室	○	継続実施
6	一般廃棄物量の計測継続 ↓2014.1月より実施 ※引佐は、2018.3～実施	管理部 生管(引佐)	○	継続実施

[総評] 電気・ガス・水道の使用量削減は、長年継続して実施しています。

ガソリン購入量が、セレナe-POWERへ社用車変更やガソリンリフト廃止の効果が出ました。

仕損費の中で塗装の費用が急増。2025年度で対策中です。

<教育・訓練>朝昼礼・工場内朝礼等で、環境方針・経過報告を周知しています。

緊急異常事態対応訓練・避難訓練を実施し、自分の役割と責任を確認しました。

2025.04.01 朝昼礼 社長より 説明

2024.12.27 緊急異常事態対応訓練(都田)
ガス漏れ対応手順 & 避難経路確認



▽ 環境経営計画の取組結果とその評価(総評)

☆都田工場 都市ガス漏れ対応

2024年1月以降

都田工場 の都市ガス使用量が増加しつづけ、集計開始後最大値となりました。

3月使用量(前年57m³⇒99m³へ)

使用用途は、手洗い場と食堂のみ

大きな変化点が無いのでガス漏れの可能性がある為、業者へ連絡

しかし…

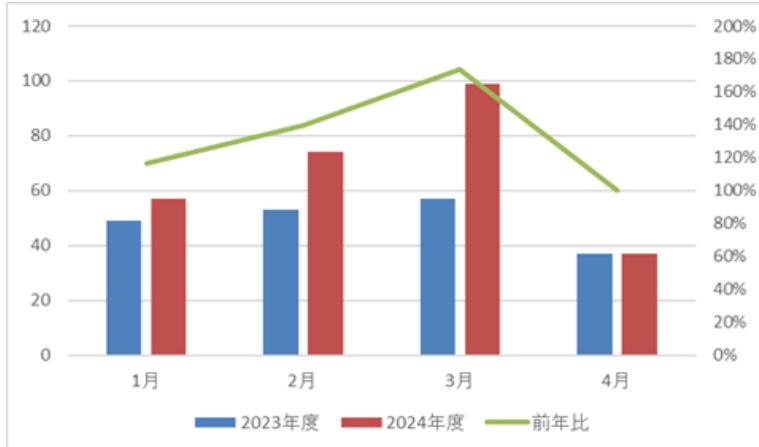
・断続的にガス漏れしているなら自動的に遮断される(されていないなら問題無い)との返答あり

・ガスマーター横のパイロットランプ点滅+過去最大の使用量を伝え原因究明の為、点検依頼結果…地中のガス管が1F行きと2F行きへ分岐するところが破損し、ガスが漏れていました。

1Fの給湯室は使用頻度が少ない為、切断することでガス漏れを止めることとなりました。

修理後…4月の使用量が通常の使用量へ戻ったのを確認できました。

◎エコアクション21運用で、集計していた為異常にすぐ気が付き、手順書に基づき対応できました。



☆社用車変更後の効果確認

☆2024年2月に、

社用車2009年製のトヨタ アルファード

⇒ニッサン セレナ e-POWERへ

燃費が、9.7km/l ⇒ 19.3km/l

2024年度ガソリン使用量減になるか
確認の結果

(使用頻度・距離など単純比較は
できませんが、)

前年対比73%となりました。

都田工場 都市ガス使用量

	2023年度	金額	2024年度	金額	前年比
1月	49m ³	12,177円	57m ³	12,041円	116%
2月	53m ³	12,649円	74m ³	15,616円	140%
3月	57m ³	13,106円	99m ³	20,778円	174%
4月	37m ³	8,716円	37m ³	8,716円	100%

都田工場 ガソリン購入量

都田 ガソリン	2023年度	2024年度	前年比
購入量l	1379.83	1005.56	73%



☆都田工場・引佐工場 工場周辺ゴミ拾い・清掃活動

都田工場・引佐工場ともに 工場内だけでなく

工場周辺のゴミ拾いなどの清掃活動を継続実施しています。

都田工場では、月2回程度 間接部門の従業員を中心に

工場内・工場周辺の草取り・落ち葉拾い・ゴミ拾い

等も実施しています。



2025(令和7)年度 改 善 活 動 計 画 書(各部署より環境関係を一部抜粋)

○No. 1 都田工場

評価：○目標達成・実施 △(取り組み、対策したが)目標未達成・一部未実施 ×何もせずに未達成・未実施 新日本ホイール工業株式会社



2025(令和7)年度 改 善 活 動 計 画 書(各部署より環境関係を一部抜粋)

○NO.2引佐工場

評価: ○目標達成・実施

△(取り組み、対策したが)目標未達成・一部未実施 ×何もせずに未達成・未実施 新日本ホイール工業株式会社

活動実施項目	評価	推進者	担当者	スケジュール (-----: 計画 →: 実施済み)											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生産性向上 製造経費削減 製造比例費削減		加工 塗装 組立 生管	係長 係長 係長 係長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製造固定費削減															
品質向上 仕損費削減 前年度対比50%削減		加工 塗装 組立 生管	係長 係長 係長 係長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CO2排出量削減 省エネ活動 電力量削減		加工 塗装 組立 塗装	係長 係長 係長 係長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LPG使用量															
生産量当たり (個当たり)				予算対比 比例3.6%減 固0.8%減											
節電 				前年度対比50%以下											
				2.77kwh/個以下											
				0.97kg/個以下											

VII 環境法規制の取りまとめ その1

1. 環境関連法規の遵守状況

新日本ホイール工業株式会社 都田工場・引佐工場 チェック者:管理部主査 確認日2025年6月25日
遵守状況を確認した結果、下記の通り違反はありませんでした。

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	該当する工場 設備・項目	点検・測定頻度 時期	都田	引佐	改定 チェック	順守 判定
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	第一種特定製品の損傷等防止する為、維持保全の為定期点検を実施	都田工場 5台	3年に1回 2024.2.7済 次回2027.3迄	○	-	○	○
	第一種特定製品の損傷等防止する為、維持保全の為簡易点検を実施	都田・引佐 業務用エアコン等	四半期に1回以上 6月・9月・12月・3月末	○	○	○	○
	フロン類の回収が終了したら、引取証明書の交付を確認し、回収依頼書又は委託確認書の写しを3年間保存する必要	都田・引佐 業務用エアコン 冷水機等	廃棄時に対応	○	○	○	○
労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防規則	屋内作業場について6ヶ月以内ごとに1回有機溶剤等の濃度を測定	管理濃度 ・トルエン…20ppm以下 ・キシレン…50ppm以下 ・メチルイソブチルケトン…20ppm以下	9月・3月に実施	-	○	○	○
騒音規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	特定施設の設置の工事の開始日の30日前迄に浜松市に届け出なければならない	届出数 都田工場 旋盤34ポール盤4 切断機1研磨機1 コンプレッサー2エアコン16 引佐工場 コンプレッサー3送風機3 旋盤16ポール盤4 集塵機1エアコン9	種類ごとの数が倍を超える場合、騒音の防止方法を変更する場合は、変更のあつた日から30日以内に浜松市長へ届け出る	○	○	○	○
浜松市との公害防止協定に基づく細目協定書	事業所敷地境界線における騒音レベルは、次の基準値以下とする第4種区域工業地域(第1種区域と接する)	都田工場 ・ 引佐工場	大規模な設備変更等の際等で測定 昼 70(65)デシベル以下 朝・夕65(60)デシベル以下 夜 60(55)デシベル以下	○	○	○	○
振動規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	特定施設の設置の工事の開始日の30日前迄に浜松市に届け出なければならない	都田工場 コンプレッサー2 引佐工場 コンプレッサー3	種類ごとの数が倍を超える場合、騒音の防止方法を変更する場合は、変更のあつた日から30日以内に浜松市長へ届け出る	○	○	○	○
浜松市との公害防止協定に基づく細目協定書	事業所敷地境界線における振動レベルは、次の基準値以下とする第2種区域の2…工業地域	引佐工場 ・ 都田工場	大規模な設備変更等の際等で測定 昼間 70デシベル以下 夜間 65デシベル以下	○	○	○	○
PRTR法	第1種指定化学物質の年間取扱量が1t以上排出量・移動量の届け出が必要	引佐工場	6月末迄に提出	-	○	○	○
消防法	少量危険物取扱所届出・管理	都田工場	届出の確認 保管状況の確認(年2回)	○	-	○	○
	消防用設備等を定期的に消防設備士に点検、消防訓練の実施	引佐工場 ・ 都田工場	消防点検…年2回 都田…訓練の計画書提出	○	○	○	○

VII 環境法規制の取りまとめ その2

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	該当する工場 設備・項目	点検・測定頻度 時期	都田	引佐	改定 チェック	順守 判定
浜松市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	事業系一般廃棄物の処理	引佐工場 ・ 都田工場	市条例の基準厳守・確認	○	○	○	○
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	引佐工場 ・ 都田工場	許可の確認・・・年1回	○	○	○	○
	保管基準	引佐工場 ・ 都田工場	掲示板：60cm×60cm以上表示 飛散・浸透防止(定期的に巡回)	○	○	○	○
	マニフェストの確認	引佐工場 ・ 都田工場	A、B2、D、E票の保管（5年間）	○	○	○	○
	マニフェストの確認	引佐工場 ・ 都田工場	B2・D票90日、E票180日以内期間内返却確認	○	○	○	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	引佐工場 ・ 都田工場	4/1～3/31迄の報告を6/30迄に浜松市へ提出	○	○	○	○
	実地確認	環境管理責任者 事務局	処理委託先の現地確認 年1回以上 5年間記録保管	○	○	○	○
愛知県廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	県外産業廃棄物搬入届出書	引佐工場	県外の事業場において生じた産業廃棄物を県内に搬入しようとする場合の届出 30日前迄に提出	—	○	○	○
愛知県廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	県外産業廃棄物管理票交付等状況報告書	引佐工場	4/1～3/31迄の報告を6/30迄に豊橋市へ提出 令和6年度より廃止	—	○	○	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器(テレビ・家庭用冷蔵庫・洗濯機等)をなるべく長期間使用し、廃却時は、適正廃棄(料金支払)する	都田 テレビ2台冷蔵庫2台 洗濯機2台乾燥機1台 引佐 テレビ2台冷蔵庫3台 洗濯機1台	廃棄時適正に廃棄する	○	○	○	○
自動車リサイクル法	使用済自動車のリサイクルに要する費用を負担しなければならない	都田 社用車3台 引佐 社用車 2台	廃棄時適正に廃棄する	○	○	○	○
グリーン調達法	物品を購入し、若しくは借り受け、又は役務の提供を受ける場合には、できる限り環境物品を選択するよう努めるとする	引佐工場 ・ 都田工場	エコ商品を選定するように努める	○	○	○	○
REACH規制/ 改正RoHS指令等	客先より調査依頼があり次第隨時対応する	引佐工場 ・ 都田工場	客先より調査依頼があり次第隨時対応する（開発営業部・調達技術室）	○	○	○	○

2. 違反、訴訟の有無

関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。

VIII 代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果

社長	環境管理責任者	E-21 事務局

作成 2025年 6月 30日

1 ・見直し 関連 情報	項目	確認 : (必要に応じて評価・コメント記載)
	1 エコアクション21文書	<input checked="" type="checkbox"/> グラフ等使用し、実績等見やすい書類へ隨時変更していきます。
	2 環境目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 新たに目標を設定しました。
	3 環境活動計画及び取り組み実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 別紙計画書参照。取り組み実施の月次フォロー等を行い、未実施がないようにしていきます。
	4 環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/> 記録に記載いたしました。
	5 外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/> 特に問題ありませんでした。
	6 問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 特に問題ありませんでした。
	7 取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/> 特に問題ありませんでした。
	8 その他()	

2 ・代表者 による 全体評価 ・見直し 指示	2024年度の生産状況は、2023年度と比較して、都田工場で9%減少し、引佐工場も2.5%程度生産台数が減少している。温室効果ガス排出量や電気使用量などの総量は減少しているが、生産台数当たりでは増加となった。ガソリン購入量や軽油購入量は、セレナ e-POWERを導入したり、フォークリフトを軽油⇒電気へ変更したなどで効果が出た項目もあるが、まだ改善の予知があると考える。 廃棄物の評価について、2024年度倉庫にあった大量の廃ビニール類などを処分した為に排出量が増加となった。今後金属くずの設備廃却などを含め評価する際は、臨時に発生したものは除外して、正確な評価するように事務局へ指示をした。
	2025年 6月30日 新日本ホイール工業株式会社 代表取締役 白井 修二

見直し項目	変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
1 環境経営方針	有・無	
2 環境経営目標	有・無	目標に対する評価を正確にする為、生産に関係のない臨時なもののは評価から除外する
3 環境経営計画(改善活動計画)	有・無	
4 実施体制	有・無	
5 その他のシステム要素	有・無	
6 その他(外部への対応)	有・無	取引先からの環境関連の依頼増に伴い、迅速に対応していく。